

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

公共交通空白地有償運送「たかね号」の実施

2 取組期間

・平成 29 年度～（継続中）

3 取組概要

・これまで高山市自主運行バスを運行していた高根地域において、委託先のバス事業者から撤退の申し入れがあったことにより地域組織である高根まちづくりの会が実施主体となる公共交通空白地有償運送「たかね号」に移行した。

4 背景・目的

- ・これまで高根地域では市の自主運行バスを運行しており、バス事業者に運行委託をしていたが、受託者であるバス事業者から運転手不足や、運行効率が悪い等の理由から受託できなくなるとの申し入れがあった。
- ・公共交通は安全・確実な運行が求められ、「緑ナンバー」の事業者による運行が大原則であるが、高根地域が公共交通空白地となることにより、地域の移動手段を確保する必要性が生じ、下記の経緯で公共交通空白地有償運送を導入することとなった。
- ・全便予約制の乗合タクシー化を検討したが現行の運行経費（約 25,000 千円）を超えることが判明し、効率化に逆行するため、公共交通空白地有償運送ができないかの検討を進めたところ、地元の地域組織である「高根まちづくりの会」から実施可能との回答を得られ、平成 29 年度から実施することとなった。

5 取組の具体的内容

- ・これまでの高山市自主運行バスの形態を引き継ぎながら、地域主体で利用実態に合った運行を開始。移行後の形態は以下のとおり。

	H29. 3. 31 まで	H29. 4. 1 から
運行方式	自主運行バス（のらマイカー）	公共交通空白地有償運送（たかね号）
実施主体	高山市（バス事業者へ委託）	高根まちづくりの会（市が運行経費を助成）
運行方法	市が交通事業者へ運行委託	市が運行経費を助成
使用車両	小型バス等（緑ナンバー）	自家用車（白ナンバー）
運行形態	定時定路線、一部予約制	同左※
利用者	誰でも可	同左
運賃	1乗車100円 （回数券、定期券あり）	同左

- ※ 原則これまでどおりであり、市外からの来訪者を含めどなたでも乗車可能。
- ※ 制度上、日常的に利用される住民については名簿登録が必要。乗車時の登録も可能。
- ※ 増便や時間変更など一部のダイヤの見直しあり。
- ※ 市では、運行経費を助成するほか、安全な運行確保など全面的な支援を行う。

○安全管理、事故対応等

- ・安全管理等については、道路運送法施行規則等の規定にそって体制を整え、運転手は国土交通大臣が認定する講習の受講を受けた者で構成。

○広域路線を運行する幹線バスとの接続、連絡体制

- ・接続する幹線バス停において、到着が遅れる場合など、連絡がとれる体制をバス事業者と調整し、総合病院やショッピングセンターがある中心部までの移動手段を確保。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・本来、緑ナンバーであるバス事業者、タクシー事業者に移動手段を確保してもらおうところ、公共交通空白地となったため、地域組織に打診し、地域主体の公共交通空白地有償運送を実施することとなった。

7 取組の効果・費用

- ・平成 28 年度まで バス事業者に運行を委託（年間運行経費約 25,000 千円）
- ・平成 29 年度～ 「たかね号」の運行経費に対し、実施主体である「高根まちづくりの会」へ補助金を交付（年間予算額 12,000 千円）
- ・経費として、約 13,000 千円削減することが出来た。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・地域で運転手を確保しているが、実際には 60 歳代以上の運転手がメインとなって「たかね号」を運行している。給与面では生活費を稼げるほどではないため、若手の運転手確保は難しいのが原状である。今後、現在の運転手が高齢化して担い手が不足した場合に「たかね号」を維持していけるかどうかは課題である。

9 今後の予定・構想

- ・人口減少が進展していくなか、公共交通の利用者は益々減少していくものと想定される。小規模集落における移動手段を確保するためには、他の地域においても地域に合った少量輸送のやり方を構築していかなければならない。

10 他団体へのアドバイス

- ・本来、地域公共交通は「緑ナンバー」である交通事業者を活用しつつ、地域の移動手段を確保していくことが原則であるが、交通事業者にとって運行を維持するための条件が折り合わず、やむなく撤退していくことにより、公共交通空白地となる事例はこれから増加するものと思われる。
- ・交通事業者の運転手の高齢化や担い手不足は全国的な問題であり、公共交通空白地となった地域に対する移動手段を確保していく方法は多様なパターンがあると思われる。
- ・今回、紹介した事例は、当市において幸運にも民間活力を生かしたことで経費削減につながった事例であるが、この手法に捉われることなく、地理的条件や既存資源（地元交通事業者や地域活力）の活用などを加味しながら地域に合った手法で検討していただいたい。

11 取組について記載したホームページ

「たかね号」時刻表を掲載

<http://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000023/1000126/1004688.html>